

待ちに待った熱気再び

響く音色とリズム 地域の祭り伝えて

4年ぶりに復活する8月3日から5日にかけて行われる「沼田まつり」。前身の沼田祇園祭りは、天正18年（1590）に商売の神様として、天王石（現在のテラス沼田前）に牛頭天王宮（現在の須賀神社）が祭られたのが始まりで、須賀神社と榛名神社の祭礼として行ってきた。昭和30年代半ばの経済成長の時代に衰退しましたが、氏神様を崇拝する心は絶えることなく、昭和40年代に両神社の渡御が行われ、昭和46年に市民の祭り「沼田まつり」として生まれ変わりました。

祭りに華を添えるのが、にぎやかな祭り囃子です。江戸時代後期から明治時代の初めに、お囃子や山車は前橋周辺の土地から沼田へ伝わったといわれ、特筆されるお囃子として生まれ変わりました。

お囃子の普及や伝承に取り組み沼田祇園囃子保存会連合会は、昭和54年にまんどを保有する10力町から結成。文化祭でのお披露目や、市内小学校でお囃子体験などにも取り組んでいます。

お囃子の普及や伝承に取り組み沼田祇園囃子保存会連合会は、昭和54年にまんどを保有する10力町から結成。文化祭でのお披露目や、市内小学校でお囃子体験などにも取り組んでいます。

お囃子の普及や伝承に取り組み沼田祇園囃子保存会連合会は、昭和54年にまんどを保有する10力町から結成。文化祭でのお披露目や、市内小学校でお囃子体験などにも取り組んでいます。



4年ぶりお囃子稽古 楽しい交流 初参加も

高橋場町祭り囃子保存会
会長 高羽伸夫さん
—高橋場町—

高橋場町のお囃子の練習は4月～6月は週に1回、7月中旬以降は毎日、主に北小学校区の小中学生約30人が励んでいます。締太鼓から始め、中学年から高学年で鉦や大太鼓、小学6年生以降は笛も練習するようになります。祭りが3年間中止となり、練習の機会がなかったことから、初めてお囃子に挑戦する子がたくさんいます。周りの動きを見ながら繰り返し練習することで、短期間で覚えている様子です。

お囃子で育った子たちが現在は若手の指導者になり、小中学生と楽しく交流をしています。継承につながっていることがありがたいです。

稽古コソコソ 輝く篠笛奏者へ

ヌマタ・アート・アンバサダー
篠笛・能管奏者
富澤優夏さん
—高橋場町—



小学1年生からお囃子を習い、大人になってからも毎年、沼田まつりに参加しています。さまざまな曲目に挑戦し、たたけるようになるうれしさはひとしおでした。まんどに乗って引かれ、高いところから歩く人を見渡すときは、いくつになっても優雅な気持ちになります。法被をはおると気分が上がり、祭りが終わると毎回名残惜しくなるほどです。

これまでの稽古と磨き上げたスキルを生かして、現在は篠笛・能管奏者として活動し、さんてこ囃子の笛の指導もしています。お囃子は私の原点。育った町に恩返しできることがうれしいです。

だんだんたたけるようになってきたよ。法被を着てお祭りに参加するのが楽しみだな
吉野麻莉愛さん
沼田北小5年



お母さんの勧めで、今年初めて参加。みんなの動きをまねて練習に励んでいるよ
吉岡暁くん
沼田北小3年

